

おわりに

建設コンサルタンツ協会近畿支部の研究委員会は、昭和43年にS.R.C研究委員会が発足して以来53年間、60テーマ以上に及ぶ研究活動を通して、脈々と受け継がれてきました。まさに近畿支部の技術の根幹をなす歴史と伝統のある活動です。このように永きにわたり継続されてきたことは、ひとえに研究委員会に携わられた先達や関係各位の協力と支援の賜物であると感謝いたします。

このたび、インフラメンテナンス研究委員会は前期の研究成果を踏まえ、新たに平成30年度より活動をはじめ、3年間の成果を報告書としてとりまとめました。当研究委員会は保全事業の効率的推進と品質確保・向上を目的とし、5分野の分科会より構成されております。

平成24年12月に発生した笹子トンネル天井板崩落事故を契機に、インフラ整備は『新設』から『保全』に大きく舵が切れインフラの老朽化対策が本格的に取り組まれているところではありますが、補修・補強に関する設計・施工の基準書類が少なく、また、各現場状況によって対応が異なるため、様々な課題が生じております。このため、各分科会は、維持管理を取り巻く社会環境や各現場で抱える悩みや課題等を踏まえ、各対策事例の収集・整理・分析や新技術・新工法の活用等の検討を行い、効率的・効果的な維持管理について研究を行ってまいりました。この研究成果が、保全事業に関わる皆様の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本報告書を作成するにあたり、アンケートや現地調査にご協力いただきました自治体の施設管理者の皆様、各工法に関する資料をご提供いただきました各メーカーの皆様、ならびに、各分科会におきまして、既存成果から本報告書への転載および貴重なデータのご提供等ご協力いただきました近畿地方整備局の皆様には、ご多用の中、活動の趣旨をご理解いただき真摯に対応していただきましたことに感謝申し上げます。また、通常業務に加えて、昨今の災害への緊急対応により限られた時間の中で、本報告書を取りまとめて頂いた委員の方々、ご協力をいただいた近畿支部の関係者の方々に心から厚く御礼を申し上げます。

令和3年9月

(一社) 建設コンサルタンツ協会 近畿支部
技術部会
技術副部会長 勝山 修